



モーツァルト室内管弦楽団 第139回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 139. Regulärkonzert

〈楽団創立40周年記念シリーズ〉第13回

〈モーツァルト・オペラシリーズ〉第10回

《コジ・ファン・トゥッテ》

„Così fan tutte“ KV 588

2011年1月23日(日) 午後3時 ■ いずみホール

Sonntag, 23. Januar, 2011, 15:00Uhr *Izumi Hall*, Osaka

- 主催：モーツァルト室内管弦楽団 <http://www.hi-ho.ne.jp/mozart/>
- 協賛：いずみホール〔財団法人 住友生命社会福祉事業団〕
- 協力：堺シティオペラ
- マネジメント：大阪アーティスト協会 E-mail: artists@gol.com
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-5-25-909 Tel 06-6135-0503
<http://www.oaa1985.com>



モーツァルト室内管弦楽団 第139回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 139. Regulärkonzert

2011年1月23日(日) 午後3時 ■ いずみホール

Sonntag, 23. Januar, 2011, 15:00Uhr ● *Izumi Hall*, Osaka

〈楽団創立40周年記念シリーズ〉第13回

〈モーツァルト・オペラシリーズ〉第10回

《女はみんなこうしたもの、または恋人たちの学校》K.588

W.A. Mozart : „Così fan tutte, ossia La scuola degli amanti“ KV 588

台本：ロレンツォ・ダ・ポンテ

全曲／演奏会形式上演／日本語字幕付

フィオルディリージ：津山 和代 (ソプラノ)

ドラベッラ：野村 ゆみ (ソプラノ)

デスピーナ：石橋 栄実 (ソプラノ)

フェランド：二塚 直紀 (テノール)

グリエルモ：滝川 千春 (バリトン)

ドン・アルフォンゾ：松下 雅人 (バスバリトン)

合唱：モーツァルト記念合唱団

合唱指揮：益子 務

管弦楽：モーツァルト室内管弦楽団

コンサートマスター：釋 伸司

コンティヌオ・チェンバロ：厚地えり奈

指揮：門 良一

制作：益子 務、門 良一

字幕：藤野 明子

次回オペラ公演予告

〈モーツァルト・オペラシリーズ〉第11回

《フィガロの結婚》K.492

2012年1月9日(月・祝) 午後3時 いずみホール

序 曲

第1幕

- No. 1 三重唱(フェランド、グリエルモ、ドン・アルフォンゾ)「僕のドラベッラはそんな女じゃない」
レシタティーヴォ(グリエルモ、ドン・アルフォンゾ、フェランド)「さあ、剣を抜いて！」
- No. 2 三重唱(フェランド、グリエルモ、ドン・アルフォンゾ)「女の操は《アラビアの不死鳥》さ」
レシタティーヴォ(グリエルモ、ドン・アルフォンゾ、フェランド)「いいかげんな事を！」
- No. 3 三重唱(フェランド、グリエルモ、ドン・アルフォンゾ)「美しいセレナーデを奏でて」
- No. 4 二重唱(フィオルディリージ、ドラベッラ)「ねえ、見てごらんさないな」
レシタティーヴォ(フィオルディリージ、ドラベッラ、ドン・アルフォンゾ)「今朝はなんだかドキドキしてる」
- No. 5 アリア(ドン・アルフォンゾ)「いやはや、つらい話をせにやならん」
レシタティーヴォ(フィオルディリージ、ドン・アルフォンゾ、ドラベッラ)「まあ！アルフォンゾ様、おどかさないで！」
- No. 6 五重唱(グリエルモ、フェランド、ドン・アルフォンゾ、フィオルディリージ、ドラベッラ)
「ああ、足が、思うように動かない」
レシタティーヴォ(ドン・アルフォンゾ、フェランド、フィオルディリージ、ドラベッラ)「芝居の滑り出しは上々だ」
- No. 8 合唱(兵士たち)「軍隊暮らしはすばらしい！」
レシタティーヴォ(ドン・アルフォンゾ、フィオルディリージ、ドラベッラ、フェランド、グリエルモ)
「君たち、さあ急ぎなさい」
- No. 9 五重唱と合唱(ドン・アルフォンゾ、フィオルディリージ、ドラベッラ、フェランド、グリエルモ、兵士たち)
「毎日お手紙を書いてね」
レシタティーヴォ(ドン・アルフォンゾ、フィオルディリージ、ドラベッラ)「あの方たちは？」
- No.10 小三重唱(ドン・アルフォンゾ、フィオルディリージ、ドラベッラ)「風よ穏やかに、波よ静かに」
レシタティーヴォーアレグロ・モデラート(ドン・アルフォンゾ)
「私の役者ぶりもたいしたものだ」—「海を耕し、砂に種まき」
レシタティーヴォ(デスビーナ、フィオルディリージ、ドラベッラ)「女中稼業なんてもうウンザリ！」
- No.11 レシタティーヴォとアリア(ドラベッラ)「ああ、放つといて—「胸をかき乱す激しいらだちよ」
レシタティーヴォ(デスビーナ、フィオルディリージ、ドラベッラ)「お嬢様がた、どうなさいました？」
- No.12 アリア(デスビーナ)「男たちに、とりわけ兵隊さんに」
レシタティーヴォ(ドン・アルフォンゾ、デスビーナ)「しーんとしてなんと陰気なんだ」
- No.13 六重唱(ドン・アルフォンゾ、フェランド、グリエルモ、デスビーナ、フィオルディリージ、ドラベッラ)
「麗しいデスビーナ嬢を紹介します」
レシタティーヴォ(ドン・アルフォンゾ、ドラベッラ、フィオルディリージ、フェランド、グリエルモ、デスビーナ)
「なんて騒ぎなんです、お嬢さんたち」
- No.14 アリア(フィオルディリージ)「岩のように身じろぎもせず」
レシタティーヴォ(フェランド、グリエルモ、ドン・アルフォンゾ、ドラベッラ、フィオルディリージ)「あ、行かないで」
- No.15 アリア(グリエルモ)「恥ずかしがらすに、愛らしい瞳を」
- No.16 三重唱(ドン・アルフォンゾ、フェランド、グリエルモ)「何がおかしいんだ」
レシタティーヴォ(ドン・アルフォンゾ、グリエルモ、フェランド)「笑ってられる訳はなんだい？」
- No.17 アリア(フェランド)「恋人の愛のささやきは」
- No.18 フィナーレ

* * *

第2幕

- レシタティーヴォ(デスビーナ、フィオルディリージ、ドラベッラ)「まったく、お二人ともどうかしています」
- No.19 アリア(デスビーナ)「女が十五にもなれば」
レシタティーヴォ(フィオルディリージ、ドラベッラ)「ねえ、どう思う？」
- No.20 二重唱(フィオルディリージ、ドラベッラ)「黒い髪の人にするわ」
- No.21 合唱付き二重唱(フェランド、グリエルモ、召使たち、楽師たち)「風よ、やさしく吹いて届けておくれ」
レシタティーヴォ(フィオルディリージ、ドラベッラ、デスビーナ、フェランド、グリエルモ、ドン・アルフォンゾ)
「これは何の趣向なの？」
- No.22 四重唱(ドン・アルフォンゾ、フェランド、グリエルモ、デスビーナ)「お手をどうぞ、さあこちらへ」
レシタティーヴォ(フィオルディリージ、フェランド、ドラベッラ、グリエルモ)「良いお天気ですこと！」
- No.23 二重唱(グリエルモ、ドラベッラ)「僕の心を愛する君に差し上げます」
レシタティーヴォ(フェランド、フィオルディリージ)「ひどい人だ、どうして逃げるのです」
- No.25 レシタティーヴォとアリア(フィオルディリージ)「行ってしまう…あの…だめよ—「恋人よ、許してね」
レシタティーヴォ(フェランド、グリエルモ)「グリエルモ、僕たちの勝ちだ！」
- No.26 アリア(グリエルモ)「女はこのように手当たりしだいさ」
レシタティーヴォとカヴァティーナ(フェランド)「ありとあらゆる思いが渦巻いて—「裏切られ、あなどられ」
レシタティーヴォ(デスビーナ、ドラベッラ、フィオルディリージ)「お嬢様もやるじゃありませんか」
- No.28 アリア(ドラベッラ)「恋はくせ者、いたずらっ子」
レシタティーヴォ(フィオルディリージ、デスビーナ、ドン・アルフォンゾ)「皆で私を墮落させようとしている」
- No.29 二重唱(フィオルディリージ、フェランド)「あの方の胸にすぐにも抱かれるわ」
レシタティーヴォ(グリエルモ、ドン・アルフォンゾ、フェランド)「情けない！あのごまは何だ！」
- No.30 アンダンテ(ドン・アルフォンゾ、フェランド、グリエルモ)「男たちが非難しても私は女性を守る」
- No.31 フィナーレ


門 良一 ●指揮

Ryoichi Kado, Direction

1939年大阪生まれ。フルートを曾根亮一氏に、指揮法を青山政雄氏に師事。62年京大文学部卒業、67年同大学院修了。70年同志とともにモーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり現在に至る。87年、モーツァルトのピアノ協奏曲全27曲、交響曲全74曲の連続演奏完結に対し、モーツァルト室内管弦楽団とともに第5回藤堂音楽賞を受賞。1982年より、NHK大阪文化センター、1992年より、同神戸文化センター「モーツァルトを聴く」の講師を務め、現在に至る。京都産業大学名誉教授。


津山和代 ●フィオルディリージ, ソプラノ

Kazuyo Tsuyama, Fiodiligi, Sopran

大阪音楽大学卒業、同大学専攻科修了。東京音楽大学研究科オペラコース修了。東京二期会オペラスタジオ修了。畑中良輔、福澤アクリヴィ、大森地塩の各氏に師事。東京二期会オペラスタジオ修了。公演では「こうもり」のアデーレを演唱。関西二期会では「アルバート・ヘリング」ワーズワースでデビュー。その後「フィガロの結婚」伯爵夫人、「ドン・ジョヴァンニ」ドンナ・アンナ、「ラ・ボエーム」ミミ、「椿姫」ヴィオレッタ、「ラインの黄金」フライア、「こうもり」ロザリンデ、「オルフェオとエウリディーチェ」エウリディーチェ、「グイドとエネアス」グイド、「アルチーナ」アルチーナ、など数多くのオペラに出演、いづれも好評を得る。また第九、ドイツレクイエム、メサイア、ハイドン「天地創造」、ドヴォルザーク「スターバトマーテル」、モーツァルト「レクイエム」、モーツァルト「ハ短調大ミサ」、ラター「レクイエム」のソリストを務める他、NHK-FM録音など各種演奏会に出演。チリ国際音楽コンクール第2位、二期会オペラスタジオ優秀賞。東京文化会館推薦オーディション合格。現在、同志社女子大学講師、堺女子短期大学専任講師。関西二期会、京都フランス歌曲協会、堺シティ・オペラ各会員。


野村ゆみ ●ドラベッラ, ソプラノ

Yumi Nomura, Dorabella, Sopran

大阪芸術大学演奏学科を経て武庫川女子大学音楽学部音楽専攻科修了。第3回和歌山音楽コンクール声楽部門第2位。友愛リートコンクール本選入賞。第4回大阪国際音楽コンクール声楽部門第2位。ボレンサ国際音楽アカデミー、ディプロマ修得。

アルトからコロラトゥーラソプラノまで歌いこなせる音域の広さを持ち、OSK日本歌劇団特別講師。ステージ21声楽講師。イブシロンオペラアカデミー、関西二期会各会員。


石橋栄実 ●デスピーナ, ソプラノ

Emi Ishibashi, Despina, Sopran

大阪音楽大学卒業、同専攻科修了。「ヘンゼルとグレーテル」のグレーテル役でデビュー。その好演により、ケムニッツ市立歌劇場(ドイツ)にグレーテル役として招かれる。その後もザ・カレッジ・オペラハウス、兵庫県立芸術文化センター、いずみホール、新国立劇場他に於いて、オペラに数多く出演。いづれも好評を得る。近年では「イドメネオ」「ランスへの旅」「火刑台上のジャンヌダルク」「人間の声」「真夏の夜の夢(プリテン)」「欲望という名の電車」などに出演。また、これまでに五回のリサイタル開催の他、NHK名曲リサイタル出演やNHK大阪放送局開局85周年記念番組「よみがえるラジオ歌謡とその時代」テレビ出演、また久石 譲ジルベスターコンサートや上海万博での演奏など、幅広く活動している。大阪舞台芸術奨励賞、音楽クリテック・クラブ賞、坂井時忠音楽賞、咲くやこの花賞、他受賞。大阪音楽大学助教。


二塚直紀 ●フェランド, テノール

Naoki Nitsuka, Ferrando, Tenor

大阪芸術大学卒業。関西二期会オペラスタジオ修了。仁禮義子氏、木川 誠氏に師事。第15回摂津音楽祭聴衆審査賞受賞。第32回イタリア声楽コンクール入選。第23回飯塚新人音楽コンクール第1位。平成16年度大阪舞台芸術新人賞受賞。「フィガロの結婚」クルツィオ役でオペラデビュー後、「ラ・ディヴィーナ」若手指揮者、「マリツァ伯爵夫人」タシロ、「ボッペアの戴冠」ネローネ、「メリー・ウィドウ」カミーユ、「こうもり」アルフレード、「春琴抄」利太郎、「ジャンニ・スキッキ」リヌッチョ、「ドン・ジョヴァンニ」オッターヴィオ、「ファルスタッフ」フェントン等出演。また、ベートーヴェン「第九」、メンデルスゾーン「交響曲 第2番」、クルト・ヴァイル「ベルリン・レクイエム」、ブルックナー「テ・デウム」のソリストをつとめる。現在、関西二期会会員、びわ湖ホール声楽アンサンブル専属歌手。


滝川千春 ●グリエルモ, バリトン

Chiharu Takigawa, Guglielmo, Bariton

大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業、同大学院オペラ科修了。「魔笛」「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「コジファン・トゥッテ」「カルメン」「仮面舞踏会」「椿姫」「愛の妙薬」「こうもり」「泥棒とオールドミス」「スザンナの秘密」「ボッカチョ」などのオペラ・オペレッタに出演。ベートーヴェンの「第九」、ヘンデル「メサイヤ」などのソリストも務める。またミュージカル出演や有名歌謡歌手のバックボーカル、他にも甲子園高校野球全国大会の全出場校校歌歌唱や多くのTV・ラジオCMなどの録音と、ジャンルを超えた音楽活動の幅は大変広い。大阪芸術大学音楽学部ポピュラー音楽コース講師。


松下雅人 ●ドン・アルフォンゾ, バスバリトン

Masato Matsushita, Don Alfonso, Bassbariton

国立音楽大学首席卒業及び同大学院修了。矢田部賞受賞。ロータリー財団奨学生としてモーツァルトウム音楽院に留学。その後、ボン歌劇場専属バス歌手として契約を結び、エディター・グルヴェローヴァ、ルネ・コロ、ピエロ・カップチリ等の著名な演奏家と共演、200回以上の舞台を踏む。帰国後、関西二期会オペラ、日生劇場オペラ、びわ湖ホールのオペラで活躍。特に「魔笛」ザラストロは指揮者・演出家から絶大な信頼を得、全国各地で好演。日本演奏家連盟会員、関西二期会会員、名古屋音楽大学准教授。愛知県立芸術大学講師。



モーツァルト室内管弦楽団 Mozart - Kammerorchester

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、40年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケ

ストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。'91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで'90年からは大阪いずみホールを本拠として定期演奏会を、また東京定期演奏会は既に16回を数えている。海外では'88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス（'85、'87年）、シブリアン・カツァリス（'93、'94年）、ペーター・ダム（'83、'86、'88、'98、'00年）、ウィーンフィル木管アンサンブル（'86年）、ライナー・キューヒル（'90年）らとの名協演はいまも語り草となっている。'91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲などで活発に協演するほか、'93年には堺シティオペラとの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。'06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。—「すばらしい成果」（毎日新聞）、「この楽団は注目」（朝日新聞）。2007～9年には〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉（全10回）を開催。2009年からは3年間にわたる〈創立40周年記念シリーズ〉を開始している。

モーツァルト室内管弦楽団／出演メンバー

コンサートマスター ● 釋 伸司

第1ヴァイオリン	釋 伸司	原田 潤一	仙波 房子	門 小夜子
	中川 衛子	幣 晴代	角南麻里子	ファゴット 佐伯 利之
	稲庭真理子	納庄麻里子	コントラバス 南出 信一	倉永 晴美
	北村 奈美	ヴィオラ 道幸 明美	フルート 北田 由美	ホルン 細田 昌宏
	森住 憲一	佐份利祐子	フルート 大江 浩志	小曲 善子
	菊池 優理	三上 哲	オーボエ 本庄 ちひろ	トランペット 大西 由起
第2ヴァイオリン	本多 智子	西嶋 恵子	オーボエ 福田 淳	森下 智念
	清水めぐみ	チェロ 日野 俊介	トロンボーン 忽那 有紀子	パーカッション 泉 純太郎
	川島多美子	クラリネット 石塚 俊	クラリネット 高橋 博	チェンバロ 厚地 えり奈



モーツァルト記念合唱団 (合唱指揮 ● 益子 務)

Mozart-Choral Ensemble (Chor-Dirigent / Tsutomu Masuko)

「本番のステージで柔軟に音楽をすることのできるプロフェッショナルなコーラスが欲しい」というモーツァルト室内管弦楽団の要望を受け、特別編成された合唱団。女声は堺シティオペラの選抜メンバー（若手プロ）を中心に、男声は合唱王国関西の著名合唱団の指揮者、パートリーダークラスに参加を要請、1991年7月末に益子 務氏の指揮のもと発足。同年12月モーツァルト室内管弦楽団のモーツァルト没後200年記念第48回定期演奏会で「レクイエム」を協演後、毎年協演を続ける。93年初の単独自主公演でジャーニス・ワグナー氏を客演指揮者に迎え「ロジェ・ワグナー・メモリアルコンサート」を開催。98年、2000年ベルギー・フランドル政府の招きで文化交流使節としてベルギー演奏旅行を行い、大成功を収めた。2000年創立10周年記念にCD「ロッシェニ：小荘厳ミサ」をリリース。

モーツァルト記念合唱団／出演メンバー

合唱指揮 ● 益子 務

ソプラノ	植木 奏子	銭田 美幸	友金 郁子	関 夏希	御池あゆみ
アルト	井村 園子	金田智津子	佐野 康子	中根 佳江	林 理恵
テノール	大谷 清	岡本 弘信	北井 茂	豊田 耕平	豊田 千之
バス	小島 博	近藤 達夫	二階堂哲雄	ピーターフィンケ	米岡 実
ピアニスト	厚地 えり奈				

モーツァルトの最高傑作《コジ・ファン・トゥッテ》

このオペラの題名は現在日本では原語のイタリア語のままで呼ばれている。だが今から四、五十年前はその訳語の「女はみんなこうしたもの」で通っていた。日本語訳のほうがわかりやすく思っているのだがなぜかこうなっている。訳語に「女性蔑視」の響きが感じられるからだろうか。単に「ちょっと品がないから」だけかもしれない。誰かが何かを改め出すと直ちに右へならえをするのがわが民族のうろわしき属性であるが、これもその一例なのであろう。さて、その題名が暗示している筋書きの荒唐無稽さによって、このオペラの真価は不当にも長く認められてこなかった。このオペラに対する悪評の代表的な例としてしばしば引用されるのは次なるドイツ音楽の偉大な二人の作曲家のことである。

『《ドン・ジョヴァンニ》や《コジ・ファン・トゥッテ》のようなオペラは私には作曲できないでしょう。こうしたものには嫌悪感を感じるのです。このような題材を私が選ぶことなどありません。私には軽薄すぎます。』（ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン）

『私は《コジ・ファン・トゥッテ》に《フィガロ》のような音楽を案出することができなかったモーツァルトをどんなに心から愛し、崇拜していることだろう。もしモーツァルトにそんなことができていたとしたら、音楽というものがどんなに破廉恥にはずかしめられていたことだろう。』（リヒャルト・ワグナー）（以上、いずれも「コジ・ファン・トゥッテ」名作オペラ・ボックス9（音楽之友社刊）より引用）

一方でこの二人の書いたオペラは、主人公の男性が高貴な女性の自己犠牲によって救われるという筋書きになっているのであるが、これこそ男のご都合主義というべきであろう。彼らが生きた19世紀はそういう時代だったのである。なにも19世紀までさかのぼることはない。私事にわたって恐縮であるが、私はあるカルチャーセンターでモーツァルトの講座を持って30年近くになるのだが、そこでこのオペラも早くから取り上げていた。その初めの10年くらいの間に世の中がどんどん変わっていき、「不倫ゲーム」とでもいうべきこのオペラの内容に何の抵抗感もなくなるくらい、わが日本の男女間のモラルは変化したのである。

前置きはこれくらいにしてこのオペラのすばらしさを語ろう。なんといいても音楽の密度が非常に高い。この作品は1789年秋に着手され翌年1月に初演されているから、死の2年前の作ということになる。1787年に父親が亡くなっているのだから、それまでのように彼宛の手紙も残されていず、作曲の状況はほとんど不明である。だが、その時期にしばしば借金を申し込んでいたプフベルクという人物宛の手紙に、このオペラの試演会にハイドンとともに招くと書かれていることから、相当な自信作であったことがわかる。「これ以後に《魔笛》も《レクイエム》もあるじゃないか」と言われる方も多いと思うが、私は《コジ・ファン・トゥッテ》こそモーツァルト最後の超大作であると思う。

旋律がすばらしい。モーツァルトの旋律は平易で美しいというのが最大の魅力だが、このオペラではそのモーツァルト独特の旋律が次から次へと山のようにたくさん出てきて、それらが実に巧妙につながれて流れていくのである。私はモーツァルトの音楽においてこの「流れ」というのが最大の要素であると思うのだが、モーツァルトが持つ音楽素材の豊富さがあってこそその豊かな流れが生み出せるのである。特に第2幕のフィナーレでは、音楽の豊饒さがそれぞれ永遠に続くような錯覚を呼び、聴く者を陶然たる境地におとし入れるのだ。

さらに和声の豊さがある。半音階や短調和音を駆使した微妙な転調が、登場人物の性格や心理の表現に反映され聴き手を飽きさせない。モーツァルトの和声の多様さはロマン派をもしのぐものがある。

これはあまり言われていないようだが、モーツァルトの管弦楽法は時代を超えている。モーツァルトは楽器の性能や特質を知り尽くして、適材適所に楽器を使用し極めて合理的にオーケストレーションを行っている。これは後のベルリオーズに通じるものを感じさせる。ハイドンやベートーヴェンはこの点でモーツァルトに遠く及ばず、その影響を強く受けたのである。当時まだ新顔であったクラリネットを中心に、ファゴットやホルンといったモーツァルト好みの楽器を組み合わせたりとした響き—私はこれを「モーツァルト・サウンド」と呼んでいるが—は当時の最新のサウンドであり、このオペラにおいて最高度に用いられている。

このオペラの声楽曲としての特徴は、重唱がきわめて多く、6人の歌手に公平に音楽が振り分けられたアンサンブル・オペラであることだ。歌手すべてに伯仲した実力が求められ、その上高度なアンサンブル能力が要求される。重唱の組み合わせの変化がもたらす多様性もこのオペラの魅力となっている。

さて、このオペラのテーマは「真実の愛」と「浮気心」が相反するものではなく、実は表裏一体であるということであるだろう。「生」と「死」、「喜び」と「悲しみ」といった相対する概念が実は一体であるという「アンビバレンス（両面価値性）」こそモーツァルト芸術の本質なのであり、それを高らかに歌いあげる《コジ・ファン・トゥッテ》がモーツァルトの最高傑作になったのは必然であるともいえる。そこにおいて台本作者ダ・ポンテの功績は大いに賞賛されてしかるべきであろう。荒唐無稽極まりない設定のドラマ（オペラ・ブッファ）が、その最終局面において人間の真理を浮かび上がらせる真摯なドラマ（オペラ・セリア）に変質するという、極めてユニークなオペラがこの二人のコンビによって生み出されたのである。

本日の上演においては、2つのナンバーのカット（No.7の二重唱とNo.24のアリア）のほか、いくつかのナンバーの一部、レシタティーヴォ・セッコの一部をカットしています。

《コジ・ファン・トゥッテ》の上演に際し各方面に協賛のお願いをいたしましたところ、多くの方々からご賛同を得ました。ここにご芳名を記載させていただき謹んで謝意を表します。ありがとうございました。

高松建設(株)
大日本除虫菊(株)
田中 敏
曾我見郁夫
三谷 郁子
碓井 昭彦
河井 洋子
西川 保子
金定 秀光
金定嘉也子
塩脇 昭司
塩脇 祥子
内藤 芳美
佐竹 時子
平岡 龍人
平岡 禮子
加藤 勝己
祐野 尚子

石本三千也
阿部由美子
松山 壽一
原田 隆宏
佐野 哲郎
石光 正男
得田 栄蔵
稲垣千代子
福岡 昭吉
福岡 隆子
村上 治水
吉村 盛善
和田 暁夫
畑野 峻
岡田 光夫
山本 道子
三島 秀夫
屋良 卍佐治

多賀谷 學
小柳 陽一
東 武次郎
堀岡 幸次
大谷 泰夫
井上 治彦
後藤 喬雄
後藤 浩子
渡辺 優子
宮崎 悦朗
野村 透
井狩 彌介
村上小夜子
松本 幸道
松本 桂子
小寺 範生
馬場 明和
野々村 泰明

西村真知子
駒井 洋子
松枝 正明
松枝多加子
深田 晴世
津田 静代
三浦信一郎
井上 伸輔
島村 猛
一木 晃
杉浦 和子
小西 利廣
小西 裕子
萬野 尊昭
関 満智子

1月20日現在

(順不同、敬称略)

アイディアが土地を活かす



高松建設

TakaMatsu

高松建設

検索

0120-53-8101

〒532-0025 大阪市淀川区新北野1-2-3
TEL:06-6307-8101(代)
URL <http://www.takamatsu-const.co.jp/>

本社・大阪本店、東京本店、千葉支店、
埼玉支店、横浜支店、名古屋支店、
京都営業支店、神戸営業支店

東証・大証第一部上場

高松コンストラクショングループ

高松建設
やまと建設(大阪)
日本建商(大阪)
やまと建設(東京)
日本オーナーズクレジット
日本建商(東京)
住之江工芸
J.P.ホーム

青木あすなろ建設
あすなろ道路
青木マリン
東興ジオテック
みらい建設工業
エムズ
金剛組
中村社寺

KINCHO



●クローゼット用●

クローゼット・引き出し・衣類の防虫+消臭に!

ハーブのチカラ 衣類に虫コナーズ

www.kincho.co.jp

New



●引き出し・衣装ケース用●

会 長 岡 本 道 雄 (京 都 大 学 名 誉 教 授)
理 事 谷 口 安 平 (京 都 大 学 名 誉 教 授) 森 井 清 二 (関 西 電 力 株 式 会 社 顧 問)
吉 野 泰 生 (住 友 生 命 保 険 相 互 会 社 名 誉 顧 問)
(50音順)
顧 問 橋 下 徹 (大 阪 府 知 事 : 申 請 中) 平 松 邦 夫 (大 阪 市 長)
伊 藤 郁 太 郎 (大 阪 市 立 東 洋 陶 磁 美 術 館 館 長) 梅 原 猛 (国 際 日 本 文 化 研 究 セ ン タ ー 顧 問)

法人会員 (50音順)

荒川化学工業	サントリーホールディングス	大同ケミカルエンジニアリング	丸山興産
井上冷熱	住友金属工業	高松建設	三井住友カード
関西電力	住友精密工業	日本通運京都旅行支店	
きんでん	住友生命保険	林六	
小林製薬	住友倉庫	福山製紙	
阪野商店	ダイキン工業	丸紅	

個人会員 (入会順、敬称略)

松井 繁一	石上 豊子	桑 名 孝 子	橋 本 靖 昭	佐 竹 時 子	伊 藤 久 栄
深田 晴世	村 本 孝 夫	石 光 正 男	冠 大 五 千	宗 守 福 谷	巖 徹
河野 幹雄	松 本 幸 道	松 枝 正 明	有 賀 照 雄	荒 木 陽 子	山 村 哲 夫
河野 奈津子	笹 川 忠 士	松 枝 多 加 子	佐 野 哲 郎	宮 崎 悦 朗	連 水 洋 紀
福岡 隆子	緒 林 桂 子	高 杉 方 宏	小 柳 陽 一	栗 原 順 子	安 井 敏 雄
梅原 一哲	碓 井 昭 彦	川 島 弘 章	田 中 四 郎	完 倉 正 信	天 尾 登
石本 三千也	碓 井 み ち 子	川 島 啓 助	村 西 良 彦	野 口 祐 三	橋 本 博
田村 眞也	長 井 重 龜	坂 本 禎 子	島 村 猛	野 口 外 志 子	川 添 和 子
岸田 克己	岸 田 多 門	中 井 武 司	河 原 恭 子	森 本 武	梁 瀬 健
梅村 博也	能 田 豊	中 井 佐 和 子	松 井 と も 子	小 山 浩	松 山 壽 一
屋良 巳佐治	森 内 達 治	岸 田 孝 之 助	得 田 栄 蔵	野 原 清 秀	松 谷 郁 子
國友 正和	宮 井 茂 治	豊 田 成 子	菱 谷 勝 次 郎	堀 正 二	山 下 鉄 男
稲垣 千代子	祐 野 尚 子	切 畑 敦 詞	足 立 宣 治	中 野 勇	古 川 法 史
浮田 俊太郎	金 定 秀 光	中 東 富 佐 子	東 武 次 郎	松 井 基 純	萬 野 尊 昭
桑 山 弘	金 定 嘉 也 子	三 石 武 男	竹 林 大	松 井 香 代 子	上 田 富 士 子
三谷 郁子	中 嶋 允 子	内 藤 芳 美	豊 田 紘 生	山 本 春 子	植 田 史 子
三浦 信一郎	福 岡 昭 吉	佐 野 廣 子	奥 野 哲 久	山 本 道 子	松 本 桂 子
水島 敬夫	菅 正 徳	神 林 恒 道	飯 田 祐 子	大 磯 隆 一	佐 野 哲 昭
渡辺 優子	日 高 穂	杉 浦 和 子	宮 井 芳 子	細 井 提 吉	池 田 米
平川 美津子	藤 原 啓 助	野 村 透	塩 脇 昭 司	大 谷 弘 枝	八 木 孝 昌
安藤 邦洋	馬 場 明 和	佐 野 雅 祥	塩 脇 祥 子	満 谷 昭 夫	高 田 早 智 子
橋本 太三雄	阪 野 和 子	今 井 安 男	一 木 晃	原 喜 代 志	
阿部 由美子	宮 川 泰 濟	玉 手 隆 子	岩 崎 弘 一	大 原 清 司	
中川 泰幸	和 田 暁 夫	野 崎 志 朗	河 湖 清 子	大 原 典 子	

会 費 ・ 個人会員につきましては年会費1口2万円です。

・ 法人会員につきましては年会費1口10万円です。

(有効期間は入会時より1年間です。)
随時ご入会いただけます。

会員の特典 ・ 年間6回の自主公演にご招待致します。(1口に付き個人各1枚、法人各5枚)

・ ご同伴者は10%割引となります。

・ 関連演奏会のご案内又はご優待を致します。

・ 定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。

・ 会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。